

平成28年11月8日

東京都知事 小池 百合子 様

2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会
バレーボール競技会場建設のお願い
(嘆願書)

平素から、わが国バレーボールの発展に多大なご尽力を賜り、深く感謝申し上げます。

公益財団法人日本バレーボール協会（以下当協会）は、2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会の成功に向けて、一般社団法人日本バレーボールリーグ機構、バレーボール競技のオリンピック有志とともに、2020東京オリンピックのバレーボール会場として「有明アリーナ」を新設していただくことを強く要望いたします。

まず、バレーボール・オリンピック有志からの切実なメッセージをお届けいたします。

「1964年10月10日、『世界中の青空を全部、この東京の空に…』という名言で始まった東京オリンピック開会式、フェアプレーの精神に満ちあふれた競技、日本文化に親しみ友情が育まれた選手村生活、そして歓喜あふれたアスリートがさまざまな境界を越え、肩を組み、手を取り合って入場した閉会式—それらの光景の一つひとつが私たち『オリンピック』のまぶたに焼き付いています。日本が、世界がひとつになった瞬間でした。

バレーボールは1964年の東京オリンピックで正式種目となり、金メダルを獲得した女子チームの『東洋の魔女』という賞賛の名は世界に馳せました。東京オリンピックを契機に、バレーボール人口は急増し、『ママさんバレー』が盛んになり、お母さんたちの隣でボール遊びをしていた子供たちが、やがては全日本選手と成長していきました。東京オリンピックから半世紀が過ぎた今も、そのレガシーは脈々と息づいています。

2020年、バレーボールは生まれ故郷の東京に『里帰り』をします。再び東京の地で、国民の期待と声援を背に受けて、日の丸を誇りに若い選手たちが活躍する姿は、その先の日本のスポーツ界の発展に必ずや寄与するものと信じております。『有明アリーナ』はまさにそのスポーツ発展のシンボルとなる施設であり、バレーボール選手のみならず、多くのアスリートがその会場での競技を夢見ることでしょう。

オリンピック、パラリンピックの東京開催を心から喜び、大会成功に向けて、私たちオリンピックも微力ながらさまざまな活動をしております。2020年、そしてその後のスポーツ界の発展のためにも、アリーナ競技の夢である『有明アリーナ』の建設を、心よりお願い申し上げる次第でございます。

当協会では、バレーボール競技会場建設見直しの議論が生じた当初より、2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会におけるバレーボール競技を国際バレーボール連盟（FIVB）が示した基準を満たす競技会場で開催すること、さらに、これを実現する競技会場が「有明アリーナ」であることを主張申し上げて参りました。

当協会は、「アスリートファースト」の観点から参加各国のバレーボール選手が最大限のパフォーマンスを發揮できる必要最低限の施設の整備を要望させていただいており、過剰な設備を求めているものではございません。そして「有明アリーナ」は2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会招致活動のメインテーマの一つとして掲げた「コンパクトなオリンピック」を実現できる場所であり、是非とも同会場の建設に向けた作業を開始していただきたいと存じます。

近年、サッカーでは小中学生を含めた競技人口が増加する中、バレーボールの競技人口は減じております。その様な中、バレーボール競技においては、競技人口の増加のみならず小中高生のグローバルな視野・興味を広げるためにも、2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会で単に既存の多目的施設を利用するのではなく、主たる目的として第一級の国際大会を開催できるバレーボール会場の建設が必要であると考えております。1964年の東京オリンピックがそうであったように、2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて建設される「有明アリーナ」がこれからの世代を担う子供たちの出発点になることを願っております。

当協会では、「甲子園球場」が高校球児にとっての憧れの場所であるように、また「講道館」が柔道の世界においてレガシーといえる場所であるように、「有明アリーナ」をすべてのバレーボールプレーヤーにとって憧れの場所にできるよう、2020年以降もバレーボールの国際大会や国内大会の拠点として活用していきたいと考えております。

さらに、バレーボールのみならず各競技の国際大会や国内のトップリーグが同会場を使用させていただく予定です。「有明アリーナ」がバレーボールの「レガシー」となることはもちろん、2020年以降はバレーボールを含む多くのアリーナ競技の発展に大きく寄与し、未来のアスリートを育てる施設として日本のスポーツ界に大きく貢献することを当協会は確信しております。

今後も継続的に実施される東京都、日本国政府、大会組織委員会、国際オリンピック委員会（IOC）の4者協議等を経て、最善の結論が導き出されますことを切望いたします。

公益財団法人日本バレーボール協会

会長

木村 憲治

木村 憲治



一般社団法人日本バレーボールリーグ機構

会長

嶋岡 健治

嶋岡 健治



バレーボール・オリンピック有志

小泉	勲
土管	豊敬
宮子	貞美子
藤原	恵美子
本等	勝美子
藤崎	洋子
藤本	佑子
若原	豊子
飯田	高子
小田	勝美
前田	悦智子
荒木	裕子
大竹	秀之
中垣内	祐一
佐伯	美香
井上	香織